

平成30年度 青少年交流事業モニター（派遣）  
報 告 書

公益財団法人千葉市国際交流協会

## 目次

1. 派遣概要	3
2. 滞在日程	3
3. 研究レポート	6
(1) スイスの保護動物 内山 果南	
(2) 観光立国スイスの特徴と工夫 内山 朝仁	
(3) 宗教と生活 小野 亜美	
(4) 日本の城・スイスの城 加藤 滯音	
(5) スイスの政治 河原 律子	
(6) モントルー市の市役所組織、市職員 中村 美奈(引率者)	
4. 滞后感想文（日本語／English）	23
(1) スイスでの生活／The life in Switzerland 内山 果南 Kana Uchiyama	
(2) スイスでの濃い二週間／Rich Two Weeks in Switzerland 内山 朝仁 Tomohito Uchiyama	
(3) スイスでの思い出／My memory of Switzerland 小野 亜美 Ami Ono	
(4) 思い出を糧に／The precious memory brings me up! 加藤 滯音 Renon Kato	
(5) 平成最後の夏休み平成最高の思い出／The best time in my life 河原 律子 Ritsuko Kawahara	
(6) モントルー市での滞后感想／Stay in Montreux 中村 美奈（引率者） Mina Nakamura (Chaperon)	
5. 記録写真（思い出の写真）	35

## 1. 派遣概要

- (1) 派遣都市 スイス連邦・ヴォー州モントルー市
- (2) 派遣期間 平成30年7月27日(金)～平成30年8月11日(土)
- (3) 派遣者 大学生1名、高校生4名、引率者1名
- (4) 滞在形態 一般家庭にホームステイ

## 2. 滞在日程

	日付	曜	交流内容	写真
1	7/27	金	9:50 LX161 成田発 17:00 ヘルシンキ着(経由) ジュネーブ空港着 20:45 モントルー駅着 ホストファミリー迎え	
2	7/28	土	フリーデー	
3	7/29	日	フリーデー	
4	7/30	月	Gstaad (グシュタード) AM: Gstaad Village 見学、ケーブルカーで 山頂へ PM: ハイキング	
5	7/31	火	Lausanne (ローザンヌ) AM: オリンピックミュージアム見学 PM: 大聖堂、EPFL、オールドタウン	
6	8/1	水	建国記念日 National Day AM: 公式式典出席 献花後、 マーケットプレイスまで 駐日スイス大使と共にパレード参加 PM: フリー	
7	8/2	木	Montreux (モントルー) AM: モントルー消防署見学 PM: 姉妹都市公園、シヨン城	

	日付	曜	交流内容	写真
8	8/3	金	Montreux, Vevey (ヴヴェイ) AM : Queen Studio、 Photographic museum PM : チャップリンミュージアム	
9	8/4	土	フリーデー	
10	8/5	日	AM : フリーデー 18:00 夕食会 派遣生プレゼン、引率者挨拶、 千葉踊り披露	
11	8/6	月	Gruyère and Broch (グリュイエール、) AM : チョコレートトレインにて チーズ工場見学 PM : グリュイエール城見学 チョコレート工場見学	
12	8/7	火	Les Rochers -de-Naye (ロシェデナエ) AM : 山頂到着後、散策 PM : ハイキング	
13	8/8	水	Montreux AM : Montreux Place にて、仕事体験 PM : 仕事体験終了後、 派遣生、引率者と意見交換会	

	日付	曜	交流内容	写真
14	8/9	木	Zermatt (ツェルマット) AM : 山頂散策、展望台へ PM : 町散策	
15	8/10	金	7:00 モントルー駅でホストファミリー 見送り スイス引率者とジュネーブ空港へ	
16	8/11	土	8:15 成田空港着	

### 3. 研究レポート

## スイスの動物保護

内山 果南

私はスイスの動物保護をテーマに選定しました。なぜ私がこれをテーマに選定したかというと、今の日本の状況はほかの国に比べておかしいと感じたからです。

私は海外旅行には何回か行ったことがあります。日本ではしか暮らしたことはありません。なので私が動物保護に興味を持ったときまで、今の状況について変に思ったことはありませんでした。興味を持ち始めたのは中学生のころで、きっかけはたくさんの野良猫が殺害されているというニュースを見たことです。毎日のように人が殺されているので、猫が殺されることに得に驚きはなかったです。何が衝撃だったかというと、書類送検だけで済まされてしまったということです。

日本では普通に動物が売られ、誰でも繁殖をしたり飼うことができ、町にはおもに野良猫、田舎では野良犬などがいることが当たり前になっています。ドラマや漫画などで段ボールに捨ててくださいと書いてあり中に子犬が入っているシーンは有名でつかわれることが多いと思います。なぜこういう状況が見られるのでしょうか。それは日本が動物を保護するための環境ができていないからだだと思います。野良犬や野良猫は野生の熊や鹿とは違い野良なのです。一度人間の手に渡った動物たちが放たれてしまったのを野良と言い、繁殖してしまうのです。こうなってしまったのは誰が悪いのでしょうか。私は生態販売が可能で野良が増え続けることに疑問を思わない日本人を悪いとは思っていません。特に興味がなければ他の国の動物保護について調べる人は少ないと思いますし、普通に日本で生活をしていたら疑問に思う人もあまりいないと思います。最近はこの問題に言及する人が増え、動物保護について関心を持つ人が増え始めていると思います。SNSなどで動物虐待についての投稿や批判を見ることも増えていますし、SNSが普及し始めた今だからこそ世界の情報を簡単に見ることができ新たな問題に気づける状況ができていると思います。しかしそれでも未だに動物を手放したり商売に使う人は存在し、なくなっていない。そこで私は将来私が動物保護の活動に貢献できるよう、動物保護が当たり前になっているスイスに行き実際にどんな生活なのか体験して見たいと思いました。

まず日本やスイスにもある動物愛護法について調べました。スイスの動物愛護法の内容は日本の法律とは全く違い、とても厳しく動物のことを第一に考えられています。日本の法律では飼い主や動物販売業者の責務、動物の管理などの内容が盛り込まれています。動物の管理と書いていますが、内容を見ると人間に害が及ぼさないようになど動物を守るための法律とは違うと感じました。生態販売も禁止されておらず動物保護を厳しく取り締まるつもりはないのではないかと思います。しかしスイスの法律は動物第一に考えられているので、日本の法律より厳しく細かく決められています。生態販売は禁

止されていて、国が認めたブリーダーのみ動物を繁殖して譲ることを許されています。道には飼い犬のフンを処理する袋とごみ箱が多数設置されているので、それを賄うための税金があります。犬を飼っている人にのみ発生するので犬税とも呼ばれています。日本では動物を飼うことをあまり良く思わない人もかなりいて、その原因に飼い主のマナーの悪さがあると思います。飼い犬のフン処理をせず街に放置する人が多くいるので、公園やマンションなどで注意喚起が書かれた紙などを見る事も多いです。このような飼い主の無責任な行動も動物保護が必要だと思われたい原因だと思います。さらに日本では動物の躰は必ずしもしなければいけないわけではないので、ろくにしていな飼い主もいます。躰をしないことで犬同士のトラブルや騒音問題につながります。マンションなどでは特に厳しく意見を言う人も多いので、マンションの規定や注意として決まるところがほとんどだと思います。こういう飼い主の行動が動物保護を進められない原因になっていると思います。スイスの住宅で動物を飼うことの規定は特になく、街にある大半の店に同伴して入ることも可能です。

↓犬のフン処理のためのごみ箱



スイスでは住むための決まりより飼うことへの決まりがとても厳しく決まっています。たとえば金魚やモルモットなど野生だと群れで行動する動物の単独飼いは禁止されています。最低でも2匹は飼わないといけないとなると病気になったときなどの医療費など費用が加算されます。

法律で決められているということは公的な動物保険などはあるのでしょうか。日本にはなく、一般の保険会社のペット保険を利用するしかありません。さらに言う動物の医療は人間とは違うと決められているので消費税がかかります。

スイスも日本と同様に公的な保険はなく全て自費です。しかしスイスの動物病院は様々な種類を診られるところが多いので、ラットなどの小動物は特定の獣医を探す必要がありません。

今回スイスに行き、気づいたことは日本で動物保護をきちんと進めるためには環境づくりが一番にしなければいけないということです。今の状況のまま変えてしまえば、動物を信頼して作る動物愛護の社会とは別のものになってしまいます。動物愛護法が厳しくなれば私のような動物保護を必要だと感じる人には良い社会になったといえます。しかし特に必要だと感じない人はただ決まりができたからといって気持ちの面では何も変わらないと思います。さらにペットショップやブリーダーのところにいる大量の動物が路頭に迷い処分されてしまいます。そうならないためにはまず動物を保護する大規模な施設と私たちの気持ちを変えるための何かが必要だと思います。



↑放し飼いをしている猫も多数いた

# 観光立国スイスの特色と工夫

内山 朝仁

## 【研究テーマの選定理由】

スイスは観光立国として多くの人を集めている。日本では2020年に東京オリンピックが開催されることもあり、今後、自分たちがどんな準備をし、どのような意識を持たばよいのか、また、街中や施設などでの工夫から何かヒントとして得られることがあると思いこの研究テーマを選定した。

## 1. 移動・交通機関

スイスにはいたるところに交通機関が存在する。そこで特徴的なのがスイストラベルパスである。スイストラベルパスは観光客向けにつくられているパスで、主な鉄道や、バス、湖船、都市交通などが乗り放題で利用できる。また、市内の交通、博物館、美術館が無料になったり、山岳交通で割引が受けられたりするなどの特典もある。利用できる日数や年齢によって種類は様々である。スイス滞在中は毎日利用していた。



↑ スイストラベルパス

山岳鉄道やロープウェイで山の上まで行けてしまうので、こうした乗り物を活用することで限られた時間の滞在中でも移動が非常に楽に、様々な観光地に足を運ぶことができる。

またこうした交通機関の中で様々な工夫がなされている。



例として、鉄道ではホームと電車との空間を埋める板が電車に備わっていて、スーツケースを持っていてもベビーカーを押していても簡単に乗降車できる。また、ドアが広いため自転車も乗せることができる。非常にバリアフリー化が進んでいる。

山を走る一部の電車では内装もよく、外の景色とマッチしていた。



## 2. 自然環境とその見せ方

滞在していたモントルー市の中心からとても近いところに自然が広がっている。スイスは自然環境が豊かで、そんな雄大な景観を見せる工夫や、環境を保全するための条例が作られている。山の中を走る電車では窓が非常に大きく設計されている。車内から山の上のほうを見上げるときに邪魔がなく、開放的である。



また、マッターホルンの山麓の村のツェルマットでは、条例で、車は電気自動車のみ走ることが許されている。自然環境への配慮がみられる。

←大きな窓の電車



ツェルマットの→  
電気自動車

## 3. 多言語



スイスの公用語は4か国語あり、そのうち使っている人の多いドイツ語、フランス語、イタリア語の表記が様々な施設や飲食店で見られた。さらには英語表記もしっかりされていて、自分としてもとてもありがたかった。意味が分からないということはほとんどなかったように思われる。特に電車の中に設置されているドアの開閉ボタンの下には、ドイツ語、フランス語、イタリア語、英語で説明が簡潔に書いてあった。他にも、訪れた美術館、博物館には基本的に貸し出しの音声解説機があった。特にシヨン城では日本語の音声解説機もおいてあり、英語ではなかなかわからないような説明も理解できた。

#### 4.まとめ

以上 1.~3.まで三つのことに焦点を当ててきたが、それ以外にもトップレベルなホテルが数多くあること、自然保護地域の存在、国際会議・見本市の開催が多いことなどがあげられる。しかし、スイスでの滞在を通して何よりも必要だなと感じたことは、人々の親切さと積極性だ。自分のホストブラザーのマセンは、電車やバスのなかで困っている旅行者を見かけては話しかけて教えていた。日本で自分の通っている学校の周りには海外からの旅行者がたくさんいるのだが、道を聞かれてうまく説明できずに終わってしまったり、逃げるようになってしまうなどという場面をみることがある。なによりも各個人の意識が大切なのではないかと思う。

#### 5.参考資料

○[mystsnets.com](https://www.mystsnets.com) Swiss Travel System Media & Trade Platform

<https://www.mystsnets.com/en/products-services/tickets-prices/swiss-travel-pass/>

○スイス政府観光局 2018

<https://www.myswitzerland.com/ja/swiss-travel-pass.html>

○WEF 観光競争ランキング 2013

<https://www.weforum.org/reports/travel-and-tourism-competitiveness-report-2013>

## 宗教と生活

小野 亜美

### 【本論】

#### [テーマ選定理由]

私の学校では宗教の授業があり、仏教の教えや行事、作法を学んでいます。そこで、他の宗教の事も知りたいと思っていたからです。また、世界には宗教を信仰している人が多いので、今後外国人と接した時に相手がどんな人なのかを理解しやすくなるかもしれないと思い、このテーマを設定しました。ヨーロッパに位置するスイスではキリスト教を信仰する人が多かったので、教会を中心に説明します。

#### [スイス国旗]

スイス国旗は赤地(赤地はローマ帝国の主権と力、血の色を表しています。)に白の十字架が描かれています。この十字架はキリスト教精神を表しているようです。キリスト教精神とは、神を愛すること、隣人愛を持つこと(自分を大切にすると同じように隣の人に優しさを持つこと)です。



#### [教会]

スイスにはキリスト教の信仰者が多いため、街のいたるところに教会がありました。それでは教会の設備を紹介します。

#### ① パイプオルガン

教会における音楽は祈りを美しく表現するもので、厳かな典礼に欠かせません。特にパイプオルガンは教会全体に美しい音色を奏で、その音は信者の信仰心を乗せて天まで届くとされており、多くの教会で昔から重宝されてきました。実際に聞いたのは初めてでしたが、音が体に響き、身が引き締められました。



↑ ローザンヌ教会のパイプオルガン

## ② ステンドグラス

ステンドグラスは聖書に出てくるお話や教えを題材にしているものが多く、文字が読めなかった人たちにもわかりやすく目や体で理解してもらえるように作られたといわれています。ステンドグラスから教会内に入る光は神だと教えられているそうです。



## ③ 鐘

多くの教会には鐘があり、現在では時刻を知らせるために使われています。昔は火事などの緊急事態を知らせるためにも使われていたそうです。ローザンヌ教会では、鐘をそばで見ることが出来たのですが、教会の高い位置にあり、街全体を見渡すことが出来ました。そのため、緊急時に鐘を鳴らすことが出来たのだと思います。現在は時計の機能と融合することに成功し無人で鳴りますが昔は一時間おきに時を知らせることができるよう人が鐘のそばで寝泊まりしていたそうです。時を知らせる鐘はやがて日本につたわり、学校のチャイムとして使われています。

## ④ 祈り

お祈りの内容は懺悔や感謝、願い事、神の名前を呼びます。神の名前をたたえて呼ぶことは賛美と言われ、讃美歌として美しく歌います。私の学校で念仏を唱える時には棒読みで読むのできれいな歌声を聴いたときは、信仰の対象に対する言葉を口にするという同じ行為でも言い方が全く異なったので興味深く感じました。

## [彫像]

教会でなくてもキリスト教を思わせるものはたくさんありました。写真のようにキリストや十字架の彫刻が街のいたるところに存在していました。普段からキリスト教の教えを忘れず、心にとどめられるようにあるそうです。

ローザンヌの街中にあったキリストの像→



[最後に]

昔から、宗教によって対立関係が生まれ、戦争や緊張状態が発生することがあるので、宗教を信仰している人は日常生活に強い影響を受けるような教えを受けているのかと思っていました。しかしそうではなく、宗教は人々の心のよりどころになる存在であり、信仰者は宗教に完全に縛られることがなく自由に暮らしていました。また、ペアであるタリサと彼女の家族は宗教を持っていませんが彼女の友人にはキリスト教の人もいました。皆仲が良く、音楽を聴きながら会話したり、プールや湖へ行ったり私にスイスの事を教えてくれたり日本の事を尋ねてくれたり、帰国した今でも連絡を取ってくれています。

宗教はその人のすべてではなく一部であることが分かりました。外国人といえど日本人と変わらず、その人の優しさなど、本質的なところを見ることが大切なのだと思います。この経験を忘れず、来年のホームステイの受け入れの時やそれ以降も国籍関係なく、たくさんの人と繋がっていきたいと思います。

## 日本の城・スイスの城

加藤 滯音

### 【研究テーマ選定理由】

私は以前から日本の城に興味があり、旅行のたびに各地の城を巡ってきた。昔のままの姿で残っている建物は数少なく、そのほとんどが後世に再建・再現されたものである。私が以前訪れた熊本城も地震で倒壊し、再建まではかなりの年数がかかると言われている。また、名古屋城の天守閣が木造復元される動きの中で、バリアフリーとの兼ね合いという問題も持ち上がっている。スイスにも古くからの城がたくさんある。それらがどのような形で保存・再建されているのか、バリアフリーについてはどのように対応しているのか知りたいと思い、このテーマを選定した。

### 【訪れた城とその歴史】

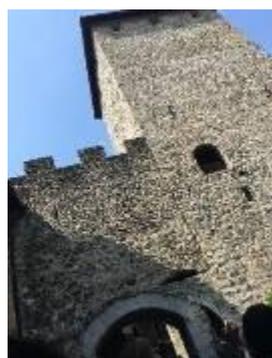
	 プランジャン城	 シヨン城	 グリュイエール城
～9世紀		サンモリス修道院により連絡通路の見張りの為築城	
1096	築城		
12世紀		シヨンの大司教からサウワ家に管理が移る サウワ家の伯爵ピエール2世がピエールニエルに改装増築を依頼 (公爵の塔・召使の部屋・聖堂)	
1270～1282			築城(地上階と天守のみ) グリュイエール伯爵家が所有
1293	サウワ家に破壊される		
14～17世紀	所有者が転々とする		
1442		関所となる	
16世紀初頭			住居部分を改築
1536		ベルンの支配下に置かれる (兵器庫及び監獄として使用)	
1554			フリブルク市とベルン市によって司法官庁・知事の住居として使用 内装をバロック様式に改修
1723	ロイス・キーンに譲渡 現在の形に改修		
1755	寺院に依頼し庭を改良		
1814	ジョゼフ・ボナパルトに譲渡		
1835		大砲の為の広い通路を設置 (砲弾貯蔵庫としても使用)	
1849			ボグイ家とバランド家が購入 芸術家により内部を改修
1866		天守閣が文書保管庫、他も倉庫として使用	
1873～1920	学校として使用		
1887～現在		ヴァン州により改修工事	

1888	博物館となる		
1929	ジヨセフ・フィン・デ・クスターが購入		
1938			博物館となりアメリカ市の所有に
1962	国連大使の住居として米国政府に譲渡		
1974	ヴァージニア州・ジュネブ州が購入		
1998	国立博物館としてオープン		

### 【日本の城との比較】



姫路城：庇と狭間



シヨン城：狭間胸壁

日本の城には大きく分けて3つのスタイルがある。山の高さを利用した「山城」、低山や丘陵地を利用した「平山城」、平野部に作られた「平城」である。南北朝～戦国初期には敵に攻められにくい山城が主流だったが、食糧を運び込むのも大変な上、適した山が多くない為、戦国中期には城下町を擁した平山城が築城されるようになった。戦国末期から江戸初期になると政治的・軍事的・経済的効率化を求めて平城へと移行する。しかし、平城には敵に攻められやすい

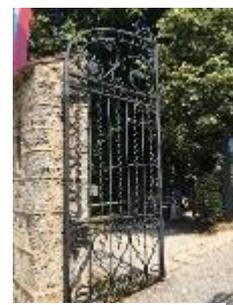
という弱点があるため、高い石垣とお堀によって防衛力を強化した。

日本の城は敵と戦うことを念頭に作られており、いかに攻めにくいかに、敵の侵入を防げるかという点に重きが置かれている。殆どの城には弓や鉄砲で中から攻撃するための「狭間」や侵入してきた敵を上から攻撃する「石落とし」、敵の侵入をいち早く察知する「鶯張り」などの防御の仕組みがある。私が見学したスイスの3つの城の中で似たような仕組みがあったのはシヨン城だけだった。これはシヨン城が通行の監視を目的として作られたため、領主の住居として作られた他の二つの城とは目的が異なるためではないかと推測される。

日本の城は石垣以外は木造や土壁が殆どであるが、スイスの城は外壁が石造りで内装が木造となっている。これは城だけではなく、一般的な建造物全般にも言えることなので文化的な違いからくるものだと考えられる。また日本の城はほぼ方形であるのに対してスイスの城は丸みを帯びたデザインが所々に組み込まれている。これは素材の違いだけではなく、階段の形状によるところも大きいのではないかと考えられる。日本の城の階段は直線的で急勾配なものばかりだが、スイスの城の階段は螺旋状のものが殆どである。そのため高い塔部分に円形のデザインが多いのであろう。門や堀の形状にも違いが見られた。スイスの城の門扉はおしゃれな装飾が施された鉄製で、堀は石造りのものが多かった。それに対し日本は櫓が併設された頑強な門で、堀も庇と狭間のある防御性の高いものが多い。



櫓門



門扉



大阪城  
左下にエレベーターが見える

バリアフリーについてはスイスの城は殆ど考慮されていないようだった。博物館として整備されているプランジャン城はエレベーターが設置されていたが、他の2つは急な階段など車椅子での見学は難しいと思われる。日本ではスロープが設けられ天守を除けば見学できる場所が多く、大阪城などエレベーターが設置され天守閣まで登れる城もある。物議を醸している名古屋城は現在はエレベーターが設置されているが、これを残すか残さないかという点が問題となっている。

### 【まとめ】

日本の城は防御性が重視された造りになっているのに対し、スイスの城は居住性重視で造られている。これは、建てられた時代背景と歴史による違いが大きいと思われる。日本は戦国時代に建てられた城が多く、国内での領地争いが絶えなかったが、スイスはフランス革命の煽りは受けたものの国内での争いは殆ど無かったため、防御性を高める必要はあまりなかったのだろう。更に日本の城は木造建築が多く、敵からの攻撃だけでなく火災による消失も多かったが、再建を繰り返して保存されてきた。一方スイスの城は戦闘による破壊も少ない上に石造り（内部のみ木造）で火災に強い。そのため、古い建物が残っているが、その一部には所有者の好みによって仕様が変更した点もみられる。現在はどちらも行政の所有となり、歴史を伝える博物館や資料館として使われ保存されている。シヨン城の修復は発掘調査も含めると100年以上に亘って続いている。歴史的価値の高いものを保存・修復するためにはそれ相応の年月が必要だということがわかる。熊本城の修復にも長い時間がかかるだろうが、後世に残していく遺産として復旧を待ちたい。

またバリアフリーに関しては日本の方が進んでいるようだ。これは日本は都市部の近代化が進んでおり、スイスは歴史的景観を残すことを重視しているという違いによるものだと考えられる。近代化した場所にはバリアフリーが取り入れやすく、その概念が浸透した結果、歴史的建造物のバリアフリー化が考慮されるようになってきているのではないだろうか。これは非常に難しい問題ではあるが、他の国の状況も参考に考えていく必要があるだろう。



### 【参考文献】

- ・「プランジャン城」「シヨン城」「グリュイエール城」の観光パンフレット
- ・「“レマン湖の女王”シヨン城 CHILLON」著：オーギュスト・ギニヤール（シヨン城修復協会）
- ・「城のしおり」（全国城郭管理者協議会）

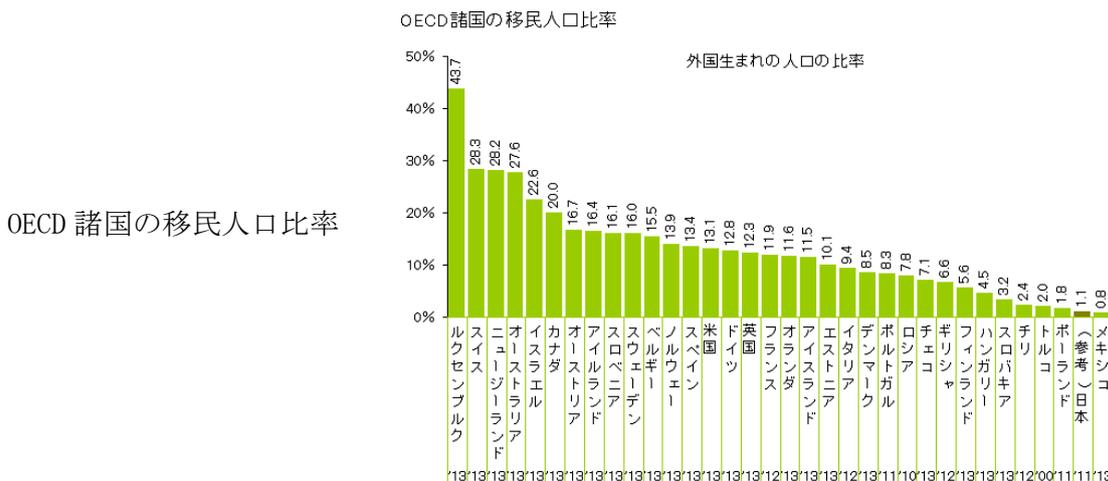
# スイスの政治

河原 律子

## 【選定理由】

私がこの研究テーマを選んだ理由は以前から政治について興味を持っていたからです。私は将来中立化政策を取っている国に住みたいと考えており、永久中立国であるスイスの政治は大変興味深いものでした。

スイスは移民が多い国であり、様々な価値観や文化を持った人達が集まっています。



(注) OECD諸国以外にロシアの値を含む。国名の下に数字は年次。  
(資料) OECD International Migration Outlook 2015(トルコは2013)、日本は国立社会保障・人口問題研究所「第7回人口移動調査」(対象世帯数15,449、有効回収率73.5%(11,353世帯))

そうした背景を踏まえた上で国民は政治について不満がないのか聞いてみることにしました。

私のホストブラザーのアランと内山くんホストブラザーであるマゼンと姉のホストブラザーであるクリスチャンに聞いてみたところ興味がないという答えが返ってきました。そういう部分は日本の若者と同じだと思いました。しかし興味がないということは、それほど不満がないということだと思います。もし、不満があるならば、興味を持ち、何が悪いかと考えると思いました。そしてクリスチャンがなぜ興味を持っていないのか教えてくれました。彼が政治に興味を持っていない理由は全く政治の内容が変わらないからだということです。

スイスの政治の重要な焦点は徴兵制だと思います。スイスでは18歳から30歳までの男性に徴兵が義務付けられています。スイスの兵力は約15万となっておりますが、徴兵を免除される人々もいます。マゼンは国への奉仕として1年間農家体験をして徴兵免除を受けました。しかし、アランは徴兵に対して意欲的であり、いずれ徴兵に行くだろうと行っていました。同じスイス国民でも意見が分かれていましたが2013年に徴兵制の是非を問う国民投票が行われました。結果は有権者の73%という圧倒的多数が徴兵制廃止に反対し、26州すべてで徴兵制廃止反対派が勝利しました。自衛隊でさえ反対派が多い日本とは大きな違いです。スイスには国民の数を上回るくらいの核シェルターがあります。永久中立国だからこそ、国防意識が強いのだと思いました。

## 建国記念日で見た軍隊



政治とは少し離れますが、私はハーフについて日本との違いを感じました。日本ではハーフは珍しい存在でうらやましがられたり、偏見を持たれたりします。しかし、スイスではハーフは当たり前で、むしろ純スイス人には一人も見ることができませんでした。そしてハーフという言葉はなく二つのアイデンティティを持っていると主張していました。

今回の派遣では思ったような研究結果は出ませんでした。スイスの政治には大して変化がなく、若者が関心を持たない程平和であるとわかりました。軍隊については変化があるかもしれませんが、国民投票がカギを握ると言えます。また、移民大国スイスでは人種が多様でスイスのアイデンティティとともに自分に関係ある国のアイデンティティを持っているということがわかりました。

## 参考文献

外務省 スイス連邦

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/switzerland/>

## モントルー市の市役所組織、市職員

中村 美奈

### 【研究テーマ選定理由】

自分が市役所に勤務しており、他国で公務員として働く友人がいることもあり、普段見聞きする機会が無い他国の市役所組織や、会う機会の無い他国の公務員について興味を持つようになった。

そこで、市同士の交流である姉妹都市交流に参加させてもらうこの機会に是非、話を聞いてみたいと思いこのテーマを選んだ。

モントルー市の市役所組織や職員について、国内の他自治体との比較では見ることがない特徴も何かあるのではないかと思い研究を進めることにした。

研究方法については、モントルー市で公務員として働く方向名かにインタビューを期待していたが、7月8月は千葉市同様に夏休み期間であり、年間最も職員の方が少ない週であったため、かなわなかった。そこで、質問機会をもらえた青少年交流事業ご担当の方と、消防署の救命救急士の方からの情報等を使用している。

### 【スイスの公務員、行政機関】

モントルー市に入る前に、スイス全体の公務員についてみる。OECDが発行した2015年時点の情報で作成された資料によれば、日本の労働人口に占める公務員数（一般政府雇用者数）は当時のOECD加盟34か国中最下位の約6%である。スイスは、同資料によると約10%と、上位のノルウェー、デンマーク、スウェーデンが約30%、加盟国平均が約18%であるので、両国共に公務員の比率が小さい。

その公務員が働く行政機関について少し見てみたい。

スイスは連邦制であり、州（カントン）が国内に26（準州含む）ある。このカントンが一つの小国と同じように主権を持つという。カントンによっては、郡（Districts）があり、そこから「コミューン（仏語：Commune）」という日本の市町村にあたる自治体に分かれている。モントルー市はこのコミューンであり、表記はCommune de Montreuxとなる。

参考までに、スイスの各行政機関が扱う仕事は以下である。

表1. スイス各行政機関と扱う仕事

行政機関	扱う仕事
連邦政府	外務、司法・警察、内務、環境・エネルギー・運輸・通信、財務、国防・国民保護・スポーツ、経済・教育・研究
州政府（カントン）	教育・医療、文化、環境保護、交通、社会保障等
基礎自治体（コミューン）	教育、保健福祉、交通、住民管理、住民生活の安全確保、直接税・間接税徴収

出典：『脱・限界集落はスイスに学ぶ：住民生活を支えるインフラと自治』P.89

### 【モントルー市市役所組織、職員】

ここからは、モントルー市についてだが、まず、市の概要は次のようになる。

表2. モントルー市と千葉市

	モントルー市	千葉市
所在地	ヴォー州	千葉県 千葉市
面積	33.4 km <sup>2</sup>	271.77 km <sup>2</sup>
人口	26,400 人 (2016 年)	972,000 人(2016 年 1 月)

この市の市役所組織と職員について、青少年交流事業ご担当者の方へのインタビューからまとめる。

表3. モントルー市役所組織、職員について

市長・副市長 以下組織	部局名 ※直訳による	所属する課
	行政 (AG)	コミュニケーション一般管理 (総務課)
	財源等 (FRH)	財務・人事
	施設等 (PSM)	市有遺産、スポーツ、公共交通手段
	世代育成等 (SFJ)	社会事業、家庭、青年
	諸活動 (ECT)	経済、文化、観光
	国土 (UEP)	都市計画、公共施設整備開発
	生活ゆとり空間等(VJA)	道路管理、公園管理、社会奉仕活動
※部局は7だが局内に2, 3の別分野の課を抱えている局もある。		
課の新設	政権が変わるごとに増設、合併、削減がある ※モントルー市役所の現市長の任期が2016-2021年である。 2020年の選挙に向け2018、2019年が現政権にとり、有権者へのアピールの年となり組織を改編中である。	
職員採用方法	空きができたポストのみ募集をする。 書類審査、記憶力、心理テスト、面接を行い、税金の納付状況、逮捕歴等を確認した上で採用を判断する。	
職員数	800人ほど	
勤務時間	8時間 (お昼の1時間を除く)	
休暇等	年末年始やイースターを除いて、 50歳以下の職員には4週間、50歳を超えると5週間休暇取得可能。	

表3について、市の規模の違いもあるが、同じ市役所と言っても局の編成や職員採用方法等千葉市と異なる点も多い。政権が変わるごとに局の新増設や、勤続年数等ではなく、年齢によって取得可能な休暇日数が異なる点も驚いた。

他の千葉市と異なる点としては、職員について、転職で市役所へ就職する方が多いという。千葉市の社会人経験者枠での採用に当たる方が全職員数の半数は超え、インタビューをした方も20年前に転職で公務員になられた方の1人であった。

もう一人インタビューができた市職員の方が、事務とは全く違う仕事だが、救命救急士の方でその方の現職までの経歴も興味深かった。

夢をかなえるため渡米したものの、生活のため何か資格を取ろうと近くの救命救急士養成学校に入学し、NYやシカゴで勤務をされたという。ある時、山岳救助

の存在を知り、スイスで役立つはずだと米国の救命救急士資格を持って、自国に戻ってきたスイス人初の山岳救助も可能な救命救急士の方であった。米国の制度も持ち帰り、救命士の判断で薬の投与が可能等スイスの救命救急士が許されている処置はアメリカとほぼ同じであるとのことだった。

4か国語を操り、米国での経験を活かしながら、誇りを持って仕事をしていると話す姿は大変印象に残った。

この方同様、海外での勤務経験がある方はモントルー市職員には珍しくないという。

### 【考察】

インタビューをした中で、市役所組織については、政権が交代するごとに市役所組織も変更になる点に驚いた。政策の中に市役所組織の改編があり、選挙前に住民へのアピールポイントの一つになっているとは、日本ではあまり聞かないものであり、興味深かった。

職員については、同じ市役所の職員とは言っても、公用語が4つのスイスでは市民と接するにも言語能力は必須であり、大半の方がトリリンガルであった。採用方法も、事務職でも空いたポストを埋める即戦力を求める等の違いがある。

そして、転職で市での勤務となる方が多く、海外から地元に戻ってくるという点も日本の市役所ではあまり聞かないことのように思う。他国で活躍し、地元に戻ってきた方が、スイスに今までなかった制度をもたらしているということも救命救急士の方へのインタビューから目の当たりで見ることができた。

今回インタビュー時間、人数等が限られていたため、十分に情報をそろえることができなかったが、他国の市役所について話を聞き、職員の方に出会えたことで当初の目標は一部達成できたと思う。国、地域によって市民も全く異なり、市民に近いところにある組織・職員の違いの一部を見ることができた。今回見せてもらったことを、今後、少しでも活かしていきたいと思う。



青少年交流事業ご担当の方



救命救急士の方



モントルー市役所

### <参考文献>

- ・川村匡由(2016)『脱・限界集落はスイスに学べ：住民生活を支えるインフラと自治』農山漁村文化協会
- ・スイス政府観光局ホームページ <https://www.myswitzerland.com/ja/profile.html> (2018年9月アクセス)
- ・OECD (2017) 『Government at a Glance 2017』 OECD <https://www.oecd.org/gov/government-at-a-glance-2017-highlights-en.pdf> (2018年9月アクセス)

## 4. 滞在感想文

### スイスでの生活

内山 果南

今回の滞在は私にとってとても充実していた 2週間でした。

私は今までに留学を経験したことがなく、着いた時に不安でたまりませんでした。始めのころは一緒に行った日本人メンバーとそこまで親しくなれなかったので、スイスで一人きりになってしまったと思いました。しかし最終的にはとても仲良くなり、新しいつながりの友達ができたととてもうれしいです。

人見知りをしてしまったので、スイス人メンバーと打ち解けたのも前半が終わったころでした。後半はとても楽しく、日本に帰りたくないと思ったほどなので話しかけられなかったことを今でも後悔しています。

今回の留学で特に一番学べたことは人とのつながりです。一応英語を話すことができるので全く話が通じないわけではないですが、不自由な言葉で関わり続けるのはとても辛い事でした。共有したいのにできず、もどかしい思いをたくさんしました。しかし、たくさんの方が私のつたない言葉に耳をかたむけて理解しようとしてくれました。もう会うことがなくても、起こった出来事を覚えていたいと思います。

次にスイス人の考えです。いろいろな国に住む日本人の友達はいますが、外国人を間近に感じたのは初めてでした。彼らは日ごろから自然を感じられる行動が多かったです。休みの日に湖で遊んだり、日光浴をしたこともありました。ヤギや湖の鳥をじっと眺めて話しこんでることもありました。そして一番驚いたことは、全員山登りに慣れていたことです。かなり急で滑る砂利道も平気そうに歩いていました。日本では山登りをする人は限られているので、私はあんなに険しい山下りは初めてでした。

あとスイス人はよく話す人が多いと思いました。口数が少ない人ももちろんいましたが、日本人に比べたら積極的にいろんな年代の人に話していると思います。大人と話していることもよくあったので、こういうことでコミュニケーションを学んでいると思いました。

スイスで生活をして、日本人とは反対といってもいいほど違う生活スタイルだなと感じました。

## **The life in Switzerland**

Kana Uchiyama

This stay was a very fulfilling two weeks for me.

I had never experienced to study abroad, I felt uneasy when I had arrived in Switzerland. At first I could not become familiar with Japanese members, I thought I was going to be alone for two weeks. At last we become best friends.

Until now I regret I had been shy of other people. The best thing I learned about is a people relationship. I can speak English a little, so I could take a communication to host family and friends. But both my English and their English were not perfect. So it was sometimes difficult for me to lead a life in Switzerland. I learned a lot of things about the life. I think there are many different English accents in the world. Everyone cannot speak like a native. If I live in a foreign country to use English, I have to understand various accents. But only a few young people can experience that.

I think I was able to have valuable experience. And I could experience how it is like to live in a foreign country. I have many Japanese friends who live abroad, but they've never surprised me because they have Japanese way of thinking. But I've experienced culture shock with Swiss way of thinking for the first time in my life. They are used to surround themselves in natural environment. I am jealous of that type of life, and I think Japanese should be surrounded by nature more. Japanese are often said to be workaholic. I think it is because they are always pressed for time. In Japan trains come right on schedule is natural thing. But this thing is unnatural to foreign people. I think Japanese are meticulous. This type of life is easy to get stressed, but they should become more generous. I felt through this experience that Japanese life and Switzerland life are completely different.

## スイスでの濃い二週間

内山 朝仁

スイスでの二週間は人生で最も濃い時間でした。これまでの一旦の総まとめのようでありながら、次なるステップへの確かなものでした。まずは、このような経験ができるように支え、快く迎え入れてくれた方々に感謝したいです。

到着したジュネーブ空港からモントルーに向かう列車の中から見た景色は圧巻でした。二週間の滞在への不安も、壮大な景色に見入ってすっかり忘れる程でした。世界にこんなところがあるのかというくらいでした。モントルー駅で列車を降りると、ホストファミリーが優しい笑顔で迎えてくれました。心なしか少しほっとしていました。

到着の次の日のフリーデイから早速ホストブラザーのマセンに色々なところにつれていってもらいました。スイスの伝統的な住居シャレーに泊まらせてもらうなど旅行ではなかなかできない経験もさせてもらいました。別の日には、首都のベルンや、チューリヒにも出かけ、また違った都市の雰囲気も感じることができました。

また、スイスのナショナルデーの式典に出席したり、ホテルで職業体験をしたりととても貴重な経験ができ、学ぶことがとても多くありました。

意外であったのが、英語であまり詰まることなく会話できたことです。英語はスイスでも母国語ではないので、ギャップが少なかったのか意思疎通がしやすかったです。夕食のときなどはホストファミリーと様々なことについて自分の生まれた国の話を交えて話しました。文化や環境、社会についてまた日本とは違った視点で話してもらえるので、とても勉強になりましたし、楽しかったです。

家では、書道道具を持って行ったりしたので日本について説明してみました。ここが英語で話す上で一番難しかったことかなとおもいます。お母さんに、もっと時間があれば詳しくききたかったな、と言われました。もう少ししっかりした準備をして行けていたらよかったと思います。ですが、その場でできることは最大限やったつもりです。

この二週間の一日一日がそれぞれ大きな発見があり、様々な人と交流し仲良くなることができ、幸せな日々でした。今後もこのような交流が続くことを願っています。この貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## **Rich Two Weeks in Switzerland**

Tomohito Uchiyama

The two weeks stay in Switzerland was the most fulfilling time in my life time. The stay was like the integration of my childhood and youth, and the foundation stone for the next step. First of all, I would like to say thank you to everyone who supported me to go to Switzerland and who welcomed me willingly in Switzerland.

The view from the train bound for Montreux was breathtaking. I was gazing at the beautiful scenery. It was so magnificent that I almost forgot my worry about the two weeks homestay. I couldn't believe there was such a beautiful place in the world. At the Montreux station, my host family welcomed me with a warm smile.

The very next day of my arrival, my host brother Masen started to take me to many places. One day Masen took me to the typical Swiss mountain cottage called 'Chalet' and I stayed for one night. I think it was a very rare experience. The other day we went to Bern, the capital city of Switzerland, and Zurich. I could feel the different atmosphere of Switzerland.

Also, I attended the official ceremony to celebrate the national day, and worked as a waiter at the hotel. These experiences were very precious and I learned many things.

Unexpectedly, I could communicate in English very easily. I think it was because English was not a mother tongue for both Swiss people and Japanese students. At the dinner time my host family and I talked about the culture, natural environment and the social issues. It was very interesting time for me.

At my host family's house, I explained the Japanese culture using the calligraphy set. This was the most difficult thing for me to express in English. Though I tried my best to explain Japanese culture, but I should have prepared more beforehand while I was in Japan. "I wish I had more free time to listen to your explanation" said my host mother.

Each day during the two weeks' stay, I found many different things day by day and was getting along better and better with Swiss people. I spent my happiest time there. I hope this precious exchange between us will continue forever. Thank you for giving me this opportunity.

## スイスでの思い出

小野 亜美

この派遣が私にとって初めての海外渡航でした。

そのため、出発前日は眠れないほど緊張していました。そんな中、モントルー駅でホストファミリーに会いました。彼らはみんな私の事を笑顔で歓迎してくれたので、すぐに緊張が解け、二週間家族のように仲良く過ごすことが出来ました。

一番記憶に残っている思い出は、フリーデーの日にペアのタリサと彼女の友達と公園で遊んだことです。私とたくさん話してくれた女の子は私と同年の十七歳で、私たちは彼らの恋愛事情について話していました。初めて会った私にそんな話をしてくれたこと、どこに住んでいても同じような会話があることに驚きました。

また、彼らは少し日本語を知っていて、「あなたのシャツ、素敵ですね！」と言ってくれたので、フランス語で「ありがとう」を意味する、「Merci」と返しました。日本語や日本に興味を持ってくれていることが嬉しかったです。他にも日本語を知りたがっていたので、「ありがとう」「いただきます」「可愛い」「酒」などの言葉を教えました。私も、「Merci」（ありがとう）や「bon appetite」（ご飯を食べる前にいいます）、「ami」（友達）などのフランス語を教えてもらいました。

私たちの母国語は違うけれど、楽しく会話できた、ということがとても嬉しかったです。

スイスに行かせてくれたお母さんお父さんと皆さん、そして応援してくれた先生、ありがとうございました。

来年、タリサのホストファミリーになるので、英語と日本の事をさらに勉強したいと思います。

## **My memory of Switzerland**

Ami Ono

This dispatch was the first overseas trip for me. So I was so nervous that I couldn't sleep a night before the departure day. When I met my host family at Montreux station, they welcomed me with smiles, so my tension got released soon after.

I talked with a girl who is same age. (But she was drunk.) Our topic was their love. I was surprised that they talked about the topic openly. Because she talked such a thing to me whom she met for the first time. And even though we live in different places, the conversation is the same.

They know some Japanese words. A boy said me 'Anata no shirt sutekidesune' So I said 'merci!!' It means thank you in French. I'm so happy because they are interested in Japan. They wanted to know Japanese, so I taught them some Japanese. For example, arigatou, itadakimasu, kawaii, sake and more. And I was taught some French, such as merci (thankyou), bon appetite (we say this ward when we starts to eat.), cheers, ami (friend). Our mother language is different, but we enjoyed talking. So I was very happy.

Thank you for my parents, my English teacher and everyone who let me go to Switzerland. Next year, I will be a host family of Talissa. So I want to study English more and know about Japanese more.

## 思い出を糧に

加藤 滯音

今回のモントルー市への派遣を通して、私はたくさんの人の優しさに触れました。会話にうまく入ることができずにいた私に声をかけてくれたスイスの派遣生たち。スイスの観光名所や自然について細かく説明してくれたホストファミリー。私からのプレゼントをととても喜んでくれて、ペンダントにするとまで言ってくれたおばあちゃん。スイスの人たちは、老若男女を問わずみんな優しく思いやりに溢れていました。それらがすべてさり気なく自然に行われていることに感動を覚えました。

特にホストファミリーはいつも私を気遣ってくれて、フリーデイには博物館や自然の中など幅広いジャンルの観光に連れて行ってくれました。電車の中での朝食やどんな場所でも開催されるピクニックは私にとって驚くような経験でしたが、そのどれもがとても楽しい思い出です。家族みんなの仲が良く、公式夕食会には父方と母方両家の祖父母が揃って参加してくれました。そして本当の孫のように可愛がってくれ、私の拙いスピーチを大いに褒めてくれました。

また、ホテルでの職業体験ではコミュニケーションについて深く考えさせられました。体験の指導者がフランス語しか話せず、仕事の指示がほとんど理解できませんでしたが、見よう見まねでなんとか仕事をこなすことができました。その時、言葉は通じなくてもジェスチャーである程度の意思疎通はできると思う一方で、言葉がないと細かいニュアンスが伝わらないというもどかしさも感じました。語学の大切さを身をもって感じた瞬間でした。

この2週間はとても充実していましたが、心残りもあります。一つ目は、もっとスイスの派遣生と仲良くなりたかったということです。相手からの質問に答えるだけでなく、自分から積極的に話しかけて距離を縮めていけたらよかったです。二つ目は、言葉が足りなくてお世話になった人たちに感謝の気持ちを十分に伝えられなかったことです。語彙力が乏しいために、ひたすら Thank you を繰り返すことしかできませんでした。笑顔があれば最初の扉を開くことはできますが、お互いをより深く理解し合うためにはやはり会話が必要です。ジェスチャーや表情だけでは伝えきれない部分を語彙力で補えるように、勉強していきたいです。

幸いこのプログラムは一回スイスに行ってそれで終わりではなく、来年はスイスからの派遣生の受け入れがあります。今回の派遣での後悔を来年も繰り返すことがないように今から準備を始め、しっかりと感謝の気持ちを伝えたいと思います。

## **The precious memory brings me up!**

Renon Kato

Through this exchange program, I realized the gentleness of many people. When I couldn't join the conversation, the Swiss students talked to me. My host family explained Swiss nature and tourist attractions finely. Manon's grandmother was very pleased to receive my presents and said "I'll make a pendant with this." Everybody was tender and considerate of any people regardless of age or sex. I was impressed by all of their thoughtful actions being performed casually and naturally.

Especially my host family always took care of me and brought me to many kinds of tourist attractions like museums and places full of nature on free day. Breakfast on a train and holding a picnic everywhere made me surprised, but everything is a good memory of Switzerland.

My host family is close, so each family's grandparents participated in official dinner. They loved me as if I were their real granddaughter and praised my speech.

On working day, the experience made me think deeply about communication. My leader at career experience could speak only French, so I couldn't understand what she said. However, I was able to handle the work by watching and imitating others somehow. At that time, I thought we can communicate without words by using gestures, but we can't convey detailed nuances. From this experience, I realized the importance of leaning language.

I was fully satisfied with these two weeks, but there are also some regrets. One of them is that I wanted to get along more with Swiss students. I should not only have answered the questions, but also have talked positively to Swiss students. The other is that I was not able to convey my appreciation to people who took care of me due to the lack of vocabulary. Because I've known limited vocabulary, all I could do was repeating "Thank you." every time.

If there is a smile, we can open our mind. If we want to understand each other, however it is necessary to take conversations. Since gestures and facial expressions are not enough to convey what I want to tell. I want to study English more to widen my vocabulary.

Fortunately, this exchange program has not finished yet. We can be a host and welcome Swiss students next summer. In order not to repeat the same regrets, I want to start preparations from now.

## 平成最後の夏休み 平成最高の思い出

河原 律子

モントルーでの二週間は長いようでとても短く感じられました。多数の日本の同世代の子達とは違い、アランや兄弟、お父さんは自分のことは勿論、家族の食事作りや食器洗いなどを自ら進んで行っていました。私も家でたまに自分の食事を作ったりしますが、基本は母任せなのでとても驚きました。また私の父や祖父は自分では全く動かず、全部母や祖母に任せているので、文化の違いなのかなと感じました。プログラムの中で最も楽しかったのはチャップリンミュージアムです。また移動の電車の中で皆でUNOをしたのも思い出に残っています。お互いに自分が普段使っている言語が自然と出てしまうので英語だけというルールを決めたところ、とても盛り上がりました。

フリーデーではスイスの伝統的な山小屋、シャレーに一泊しました。シャレーは山のかなり上の方にあっただけで人生初の山登りとしてはとても険しく、また男の子三人と私だったので体力や身体的な違いもありとても辛かったです。しかし人生の中でとても貴重な経験になりました。私はフリーデーよりも家に帰ってきた後の時間が好きでした。

アランと日本やヨーロッパの地図を一緒に描いたり、互いの言語教えあったりと他愛のない時間でしたが私にとっては大切な思い出です。谷崎潤一郎の本について通じ合った時はとても興奮しました。アランのお母さんはあまり英語が話せなかったのでフランス語で会話していました。フランス語を勉強していて良かったなと思いました。しかし言語の壁はありましたがとても私のことを可愛がってくれました。次男や三男、お父さんもとても良くしてくれました。アランと手巻き寿司を作ってみんなで食べたのもいい思い出です。

ここには書ききれない程の思い出があります。私にとって最高の平成最後の夏となりました。

## **The best time in my life**

Ritsuko Kawahara

Two weeks in Montreux is very short for me .I enjoyed my stay, furthermore I surprised at culture differences between Japan and Switzerland, especially among young people. Alan can do every house work by himself, and he also does other people's things. However, in my house I do not do it. Because it is my mother's work. I help her sometimes, but it is not my main work. In addition my father does not do any housework but I think it is not a good thing so I would like to change it.

Chaplin museum is my favorite activity. It was very fun. I also enjoyed playing UNO on train. We created the rule, which we could only use English. It was difficult for us but it made the game more fun. On free days I went to climb a mountain. It was the first time I hiked so it was very hard for me. Moreover other people were boys so there was a physical difference. I stayed at traditional Swiss wood house. It was called "chalet". This experience was very precious for me. However, my favorite time in free day was to talk with Alan. We talked about many things. I was able to learn French, geography of Europe. He knew about Mr.Tanizaki, so we talked about prize a shadow. I enjoyed Swiss life styles and it was very different from my normal life. My life is very busy and it is apart from nature. I have many memories but I cannot write every things. I am sure about one thing that this summer vacation was the best in my life.

## モントルー市での滞在感想

中村 美奈

モントルー市との青少年交流事業に引率者として、参加させてもらったことはとても貴重な経験となりました。滞在中は5名の派遣生と共に、日々、日本ではできない体験をさせていただき、この事業のスイスと日本の関係者の皆さまに感謝しております。

引率者という立場から今回のプログラムを振り返り、交流事業での目標達成や滞在中印象に残ったことが以下ようになります。

今回のプログラムを通して目標としていたものが、まず派遣生全員と滞在中怪我や体調不良無く全員で無事に帰ってくることに。

次に、過去派遣された方が達成してきたように、スイス文化を学び相手の市の方との交流を深めること。

そして、ホストファミリーや市役所の方等モントルー市に住む方から市の特色を学ぶことでした。

1つ目の目標は全員健康に怪我無く、予定通りに帰国し達成することができました。外国語が飛び交う見知らぬ場所で、暑い中でのハイキングやナショナルデーのパレード参加等、初めての経験が目白押しな日々も楽しんでいて、派遣生全員の方に毎日感心しておりました。

2つ目のスイス文化を学び、交流を深めることも達成できたと考えております。文化や歴史は訪問先で、スイスの引率者や学生からも説明を受け、ホストファミリーと過ごす中で、毎日勉強させてもらいました。

交流については、お互いに外国語を使ってコミュニケーションをとり、毎日会うたびに派遣生同士が仲良くなっていく様子や、言葉を教えあったり、全員で楽しく過ごしていた様子が目に焼き付いています。

3つ目についても、達成できたと思います。ホストファミリーにモントルー市の誇るものを教えてもらったり、他都市へ連れていってもらったりしたことで比較することができ、特徴を知れたように思います。ただ、今回はモントルー市長にお会いする機会がなく、直接お話を聞けなかったことは残念でした。

最後に、支えてくださったモントルー市、千葉市の関係者の方々、スイスの引率・学生・ホストファミリーの皆さん、派遣生の皆さんのおかげで有意義な時間を過ごさせて頂き、皆さまに感謝しております。

滞在中は、ホストファミリーが3日間旅行のため家に1人で宿泊する等予期せぬこともありましたが、ハイキング中に見た景色や、2つのホストファミリーと過ごした時間も全てが忘れられないものとなりました。モントルー市への11回目の訪問が無事に終わり、これからも2つの市の交流が続くことを期待します。

## Stay in Montreux

Mina Nakamura

It was a precious experience to me to participate in Montreux-Chiba youth exchange program as a chaperone this year.

Looking back our stay, from the view of chaperone, I write down how much we achieved the exchange program's goals and those impressive things for me.

In this program, one of the targets was all of us stay with no sick nor injury in Montreux and come back safely. The second target was, like the former program participants have achieved, learn Swiss culture and have good relationships with Swiss people. And the third one is getting to know about what kind of city Montreux is from host family and Montreux citizen.

The first target, we achieved. All of us did not have sick nor injured during the stay and came back as we were scheduled. Every day, students did look enjoying those things that they experience for the first time like hiking; participate in National Day's parade. Even it was in the unfamiliar place with foreign language. I was impressed by them about that.

The second target, I think we also achieved. Swiss chaperone, students and host families taught us a lot about Swiss culture and history. We could learn about them every day. All students communicated with each other in foreign language and looked they became closer day by day. Sometimes they taught their own language to others and other time they played together. Seeing those scenes were very impressive to me.

The last target, getting to know about Montreux, I think we achieved that, too. Host family taught me about what Montreux is famous for. In addition, they took me to other city, town, village, which enables me to see the differences from Montreux. But I was disappointed that this time we could not meet Mayor of Montreux.

At the end, I thank to everyone that supported us. Thanks to Swiss chaperone, students, host families and every one worked for this program, we could have great time in Switzerland. During the stay, there were unexpected things have also happened, like my host family went 3 days travelling and I was alone at home. But above that the beautiful view while I was hiking and the time together with 2 families are unforgettable for me. After the 11<sup>th</sup> visit from Chiba city, I do hope this program continues. Thank you so much.

5. 記録写真（思い出の写真）

(1) 内山 果南



フリーデイに湖で泳いだ様子



フリーデイに蜂蜜を採取したときに見たもの



最後のアクティビティの山登りでの写真



8月6日のアクティビティで昼ごはんを食べた村？



ホストファミリーの家で飼っていた猫



ホストファミリーの友達の家の後ろにあった牧場

(2) 内山 朝仁



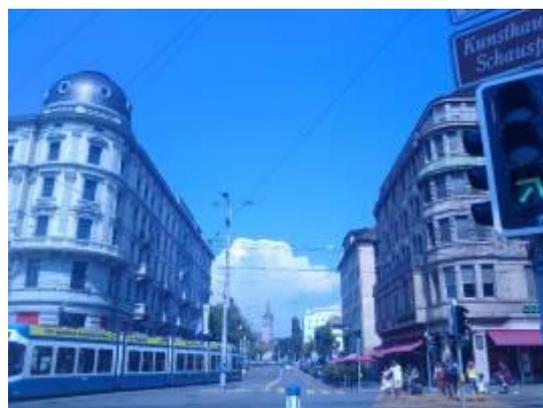
ホストファミリーと家の庭でとった写真



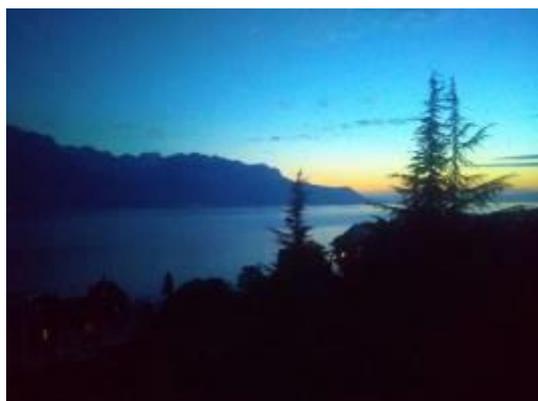
Rochers de Naya の山頂で  
ホストブラザーのマセンと



お母さんが作ってくれた夕食



フリーデーに訪れたチューリヒ



夕方、ホストファミリーの家から見た  
レマン湖



氷河 Eggishorn に登り、山頂でとった写真

(3) 小野 亜美



ホストファミリーといったマーケット



チャーリーチャップリン像の前で。この後タリサのお友達と遊びました



チョコレートケーキを作りました



森へ散歩しに行きました。暑かった！



皆で山に行った時の写真です。この後四時間も山下りをしました。スイスの自然に沢山触れられたいい日でした



夕食会の日の写真です。スピーチは緊張したけれど、千葉踊りを披露、豪華な食事がおいしかったです！！

(4) 加藤 滯音



ホストファミリーが連れて行ってくれた野外博物館  
馬車に乗ったりバターを作ったり、楽しい一日でした



ナショナルデイのパレード終着点  
スイスの人たちの愛国心に触れました



レマン湖畔で石像を真似してパシャリ  
でも私の顔の向きが違う…



ホストファミリーに日本食を紹介するため  
お好み焼きを振舞いました  
気に入ってくれてお代わりまでしてくれました



マノンの祖父母も大集結 シャーレでラクレットチーズをいただきました 本当の孫のように可愛がって貰いました



マノンと二人でフェイスパック  
歌舞伎の紹介もできてみんな笑顔になりました

(5) 河原 律子



パーティーでの写真



シャレーでの写真



ベルンでの写真



Chaplin ミュージアムでの写真



チーズ自販機



グシュタード村

(6) 中村 美奈



2回目の週末はベルンへ。アール川のほとりで涼み、ホストファミリーから説明をしてもらいながら歩いた世界遺産の街並みがとても美しかったです



ナショナルデーに、駐日スイス大使とパレードに参加しました。こちらも、貴重な経験の一つです



ホストファミリーには、毎日スイス伝統料理を作ってもらったり、他の都市へ連れて行って頂いたり、スイスの文化・伝統を教えてくださいました



夏の間だけ土曜に開催されるマルシェへ初めてアルペンホルンの演奏を聴きました



ナショナルデーでは、過去の千葉市への派遣生とも会うことができ、話が盛り上がり楽しい時間でした



スーパーでは様々なブランドのチョコレートが壁一面に売られていました。全ては試せませんでしたが、どれも美味しかったです



平成30年度 青少年交流事業  
モントルー（派遣）報告書

発行 平成30年11月発行  
編集・発行 公益財団法人千葉市国際交流協会  
〒260-0026  
千葉市中央区千葉港2-1  
千葉中央コミュニティーセンター2階  
TEL：043-245-5750  
FAX：043-245-5751  
URL：[www.ccia-chiba.or.jp/](http://www.ccia-chiba.or.jp/)